

志貴皇子の権ひの御歌一首

一四一八番

石走る 垂水の上的 さわらびの 萌え出づる春
いほばし たるみ うえ 萌え出づる ばる
に なりにけるかも

鏡王女の歌一首

一四一九番

神奈備の 磐瀬の社の 呼子鳥 いたくな鳴きそ
かむなび いはせ もり よびどり いたくな なる
我が恋増さる

駿河安女の歌一首

一四二〇番

沫雪か はだれに降ると 見るまでに 流らへ散
あわゆき はだれに 降り みるま でに なが ち
るは 何の花そも